

JICA・アサヒグループホールディングス連携事業**アサヒグループホールディングスが開発した
ビール酵母由来の安全で環境にも優しい農業資材を
JICA との連携で 36 カ国 50 人の海外政府行政官に紹介**

7月24日(水)16時から JICA 筑波センターにて、JICA・アサヒグループホールディングス(株)連携による初の開発途上国向け技術紹介プログラムを実施します。

開発途上国では、小規模農家の比率が高く、販売促進や資材購入が効率的に進められていません。さらに、残留農薬の問題があり、より安心して安全な食品・農作物へのニーズが高まっています。

そこで、食品由来の「ビール酵母細胞壁」*による液状複合肥料を使用することで、植物の免疫力が上がり、(1) 農薬や化学肥料の使用量を抑えられ、(2) 収穫量が増加し、(3) 土壌の改善などにより農作物の品質が向上し、(4) 収穫量あたりの温室効果ガスの排出量が削減され、持続可能な農業に貢献できるとされています。

アサヒグループホールディングス(株)と(独)国際協力機構(JICA)は、本連携事業において、「ビール酵母細胞壁」による液状複合肥料を海外で初めて ASEAN 各国の農業現場に導入します。JICA の持つ海外でのネットワークやノウハウを活かし、JICA とアサヒグループとが連携協力することで、ASEAN 地域のより安心・安全な食糧供給や、環境保全型の農業への貢献が期待されます。

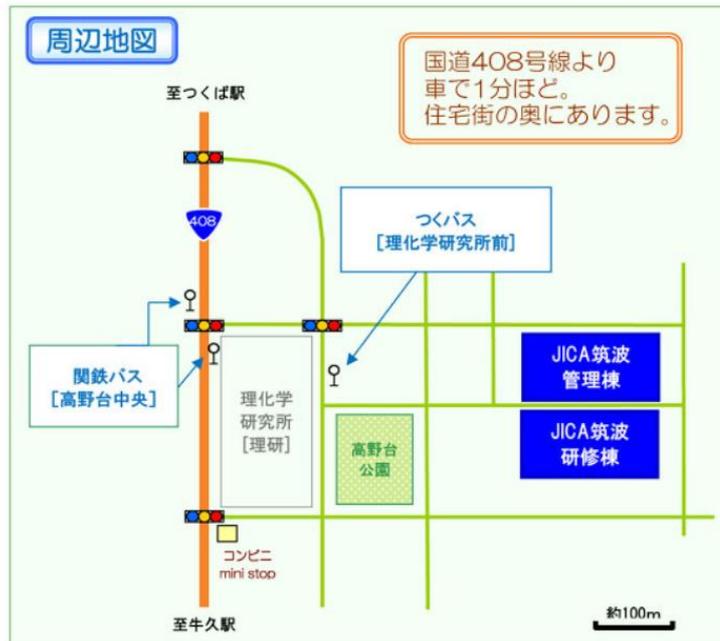
この度、本事業における国内での初の活動として、JICA 筑波センターにおいて開発途上国の農業セクターの研修員向けの技術紹介プログラムを開催します。同プログラムに対する関心は高く、アジアやアフリカ等 36 カ国、50 名の研修員が参加し、技術紹介と意見交換を行います。

***【「ビール酵母細胞壁」による液状複合肥料とは】**

ビールを醸造した後に残る酵母を分解してできる「ビール酵母細胞壁」を用いて調整した液状肥料で、アサヒグループが2004年より開発を進めてきました。植物の免疫力を高める効果があるため、日本国内ではすでに農作物、園芸作物の栽培に使用されています。またゴルフ場や公園施設等の芝管理においても新たな技術革新になることが期待されています。地球温暖化防止や持続可能な社会の実現に寄与するとして「第25回地球環境大賞 農林水産大臣賞」も受賞しました。

プログラムは以下の通り行われますところ、取材をご検討ください。

1. 日時:2019年7月24日(水) 16時00分~17時30分
2. 場所:国際協力機構筑波センター 研修棟3階 講堂
住所:〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6 <https://www.jica.go.jp/tsukuba/office/access.html>



3. プログラム:

- 16:00: 参加者紹介、挨拶
- 16:10: JICA-アサヒグループホールディングス(株)連携事業の紹介
- 16:15: アサヒグループホールディングス(株)の紹介
- 16:20: アサヒバイオサイクル社によるビール細胞壁による農業資材の説明
- 17:00: 質疑応答
- 17:25: 終了挨拶
- (17:30 終了)

【参考:覚書について】

国際協力機構(JICA)とアサヒグループホールディングス株式会社は、4月25日に、ビール製造工程で生成される副産物「ビール酵母細胞壁」を液状複合肥料として活用し、開発途上国における農業の課題解決を目的に連携協力を推進するため、覚書を締結しました。

●連携内容の紹介、覚書署名

https://www.jica.go.jp/press/2019/20190425_41.html

<https://www.asahigroup-holdings.com/news/2019/0425.html>

JICA 筑波では、本邦研修に参加する開発途上国の政府関係者(研修員)が、日本企業が持つ優れた製品、技術、システム等への理解を深める機会の提供を行っております。

【本件に関するお申込み・お問い合わせ先】

JICA 筑波研修業務課: 西岡

TEL 029-838-1744 Nishioka.Miki2@jica.go.jp

※取材をご希望される場合、7月23日(火)までに上記にお申し込みいただけますと幸いです。